



# 日本女医会誌

公益社団法人日本女医会

復刊第 223 号

2015 年 7 月 25 日発行

題字 吉岡彌生

巻頭言

## ひとりひとりお声掛けを

副会長 塚田篤子



去る平成 27 年 5 月 17 日、群馬県のホテルメトロポリタン高崎にて、第 60 回定時総会が開催されました。遠方からも多くの先生方のご出席を頂き、平成 26 年度事業報告、並びに会計報告が無事承認されました。心より御礼申し上げます。

総会前日には、昨年世界遺産に登録された、富岡製糸場へのオプションツアーが企画されました。明治の時代、最新の洋式機械を使いこなし、器機製糸の指導者となった、袴姿の工女たちの姿に、同じ時代を生きた萩野吟子の面影が重なるかのようなものでした。夜の会場では、ゆるキャラグランプリ日本一を獲得した「ぐんまちゃん」の出迎えをうけ心なだまものです。さらには、山田邦子群馬支部長をはじめとして、群馬支部会員の皆様に心尽くしの懇親会を開いていただきました。なかでも、空っ風さえ跳ね返す上州女子の八木節には、たくさんの元気をいただきました。群馬支部の皆様に於かれましては、大会開催までの長い準備期間を通して、様々なご苦労があったものと拝察しております。しかしその間、多くの支部会員増強ができたことを伺い、ご努力が報われ誠に喜ばしいことと存じ上げます。群馬の皆様、本当にありがとうございます。

さて、今年度の会計報告は、会員減少に伴い大変厳しい状況となっております。しかし多くの会員の先生方よりご寄附をいただいたことは、誠にありがたく、今後の女医会活動への励ましとなりました。ピーク時には 4,000 名を超えた会員が、現在 1,400 名を切っている状況です。この危機的困難を乗り越えるためには、理事会活動だけではなく、会員全員の一致団結した力が必要となってくるでしょう。

会員の先生方、ぜひ、定時総会や日本女医会主催の講演会等にお出かけ下さい。Face to face で親睦、交流を深めることこそ女医会発展に繋がると信じております。機会ある時は、是非、何方かにお声掛けをしてお出かけ下さい。今こそ、先生方々のお力をいただきたいと願っております。

男女共同参画が叫ばれている昨今であります。しかしながら日本女医会には萩野吟子、前田園子、吉岡彌生をはじめとする私たちの大先輩達が作られた誇るべき歴史があります。そのことを踏まえ、今後とも女医会活動に目を向けていただき、ひとりひとりが誰かにお声掛けしていただけるような会の活性化と広がりを願って止みません。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 日本女医会誌 (第223号) もくじ

|                                          |          |
|------------------------------------------|----------|
| 巻頭言                                      | 塚田篤子 (1) |
| 公益社団法人日本女医会 第 60 回定時総会                   | (2)      |
| 第 60 回定時総会を開催して                          | 山田邦子 (2) |
| 各賞授賞者の授賞理由と研究助成授与者                       | (3)      |
| 各賞授賞者の言葉                                 | (4)      |
| 野村芳子、岩本絹子、長柄光子、黒瀬理恵、入村 泉、皆川智子、武下草生子、野中沙織 |          |
| 公開講演会〈抄録〉                                | (7)      |
| 今泉友一、松山治子、歌代昌文、菊地麻美、斎藤知子、岡本彩子            |          |
| 第 60 回定時総会議事録                            | (8)      |

|                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 追悼 山崎倫子先生              | 石原幸子、小関温子 (10)    |
| 国際女医会通信④               | 2015 西太平洋地域会議レポート |
|                        | 山本繭子、前田佳子 (12)    |
| 女性医師再教育センターのご紹介        | 檜垣祐子 (13)         |
| ご紹介『スペイン風邪流行とその時代』     | (14)              |
| 会員動静                   | (14)              |
| 理事会議事録                 | (15)              |
| 萩野吟子賞、吉岡彌生賞候補者募集のご案内   | (19)              |
| 第 36 回 日本女医会学術研究助成のご案内 | (20)              |
| 2015 年度会員名簿、寄附者一覧、編集後記 | (20)              |

## 公益社団法人日本女医会 第 60 回定時総会

2015 年 5 月 17 日、第 60 回定時総会は定刻通り庶務部担当馬場安紀子理事の発声のもとに開会された。

小関温子副会長による開会の辞が述べられた後、総会成立に必要な出席者の確認がなされ、定款規程通りの会員総数の 2 分の 1 の出席者 83 名、および記名委任者数 651 名が報告され、これをもって総会の開会を宣言した。その後、平成 26 年度に亡くなられた 18 名の会員に対して黙祷が捧げられた。

山本纈子会長挨拶では、本年度総会開催地である群馬支部の皆様への感謝が述べられ、その後公益社団法人移行以降の財源の確保として助成金、および企業からの寄附金の獲得、会員数の増強の必要性が述べられた。

小関副会長により、平成 26 年度の会務報告が行われた。

ナショナルコーディネータの前田佳子理事から、平成 26 年度の活動報告のほか、平成 27 年 4 月 24 日から 26 日に開催された国際女医会西太平洋地域会議についての報告があった。また、平成 28 年 7 月 28 日から 31 日まで、ウィーンで開催される第 30 回国際女医会議への参加の呼びかけがあった。

次に議長団の選出があり、会長一任で中原千恵子会員（文京支部）、黒崎伸子会員（長崎支部）、議事録署名人には金田八重子会員（青森支部）、村田郁会員（埼玉支部）が任命され、議事進行がなされた。

### 議事

- 第 1 号議案 平成 26 年度事業報告承認の件
- 第 2 号議案 平成 26 年度収支報告承認の件
- 会計監査報告
- 第 3 号議案 平成 27 年度事業計画の件
- 第 4 号議案 平成 27 年度収支予算の件
- 第 5 号議案 次期・次々期総会開催地に関する件

### 表彰

吉岡弥生賞〈医学に貢献した女性医師〉は、野村芳子会員（千代田支部）に、吉岡弥生賞〈社会に貢献した女性医師〉は、岩本絹子会員（江戸川支部）に授与された。

荻野吟子賞は、長柄光子会員（鹿児島支部）に授与された。

学術研究助成は、黒瀬理恵氏（弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座）、入村泉氏（東京女子医



科大学内科学（第三）助教）、皆川智子会員（青森支部・弘前大学医学部皮膚科学教室医員）に授与された。

第 4 回提言論文優秀賞は、武下草生子氏（横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児総合医療センター助教）、野中沙織氏（久留米大学医学部医学科 2 年）に決定した旨発表があった。

（文責 / 広報部）

## 第 60 回定時総会を開催して

群馬支部長 山田邦子

平成 27 年 5 月 17 日（日）に、日本女医会定時総会が、群馬県で開催されました。前回は 35 年前に伊香保温泉福一旅館を借り切った総会でした。今回は 3 月に開業した北陸新幹線、上越新幹線、関越・信越・北陸高速道と交通アクセスのよい高崎駅構内のホテルを会場としました。

総会前日の 16 日は、雨上がりの爽やかな晴天に恵まれ、エクスカーションとして、1 年前にユネスコ世界遺産登録・国宝となった「富岡製糸場」を、大型バス満員で見学しました。エスコート医学生を 5 人頼み、



群馬支部の皆さんと、お手伝いいただいた群馬大学医学部の学生さん





混雑の中迷子もなく無事見学いたしました。夕方からの懇親会には、来賓に月岡群馬県医師会長、山本日本女医会会長、平敷元国際女医会会長、羽生田参議院議員（元日本医師会副会長）をお迎えし、群馬県地産のお料理を味わい、桐生市女性八木節「桐雅会」の唄と演奏、踊りを鑑賞していただき、大いに懇親を深めることができました。満を持してゆるキャラグランプリ日本一に輝いたキャラクター、ぐんまちゃんの着ぐるみに癒され写真撮影が続きましたが、中に入った医学生は汗だくで5人で交代して勤めていました。

17日は、総会前に支部・本部連絡会が催され、多くの支部員が、状況報告、問題提起をされました。総会では全ての議題が滞りなく進行し、吉岡弥生賞、荻野吟子賞、学術研究助成の各表彰が行われました。ランチョンには、群馬県こだわりのお弁当やお菓子を全員に味わっていただき、セミナーでは、日本で3番目の群馬大学重粒子線治療について講演会を行いました。活発な質疑応答のため時間を15分遅らさざるを得ませんでした。午後の公開講座は、群馬県医師会が事業として行っている「保育サポーターバンク制度について」を、群馬県医師会、群馬県医務課、群馬大学勤務医、親娘勤務医の6名の講師に講演を戴き、勤務と子育てに苦勞している女医達からは感嘆の声がありました。会場には他県医師会長の参加もあり、関心の深さを感じました。



## 各賞授賞者の授賞理由と 研究助成授与者

### 吉岡弥生賞

<医学に貢献した女性医師>

野村芳子（千代田支部）

昭和41年、横浜市立大学医学部を卒業後、長年にわたり国内外の医療機関において小児神経学域の臨床・研究に多大な成果をあげ、特に小児不随意運動症に関しては世界の第一人者の一人として高く評価されている。また後進の指導や患者の会を組織する



各賞授賞者の皆さんと山本会長

など、社会的な貢献も多大である。

### 吉岡弥生賞

<社会に貢献した女性医師>

岩本絹子（江戸川支部）

昭和48年、東京女子医科大学を卒業後、産婦人科医として長年にわたり地域医師会や日本産婦人科学会において地域医療と女性医師の地位向上に多大な貢献をした。また近年は、医学生への支援や吉岡彌生先生の縁の地などの整備にも尽力した。

### 荻野吟子賞

長柄光子（鹿児島支部）

昭和49年、東京女子医科大学を卒業後、麻酔科医として勤務ののち、病院や特別養護老人ホーム・知的障害者通所授産施設などの経営に当たり長年地域に根差した医療と福祉に努力し、特に障害のある利用者を社会人として訓練する取り組みに尽力した。

### 学術研究助成

黒瀬理恵

（弘前大学大学院医学研究科 整形外科科学講座）

「自家間葉系幹細胞を用いた関節リウマチ骨軟骨破壊の制御」

入村 泉

（東京女子医科大学内科学（第三）助教）

「膵臓移植後の1型糖尿病の再発に関する多施設共同研究」

皆川智子

（青森支部・弘前大学医学部皮膚科学教室医員）

「乾癬患者における電子スピン共鳴（ESR）測定による治療効果と治療満足度の検討」



## 吉岡弥生賞、荻野吟子賞、第 35 回学術研究助成 各賞授賞者の言葉

### 身の引き締まる思い

千代田支部 **野村芳子**

この度、栄えある日本女医会吉岡弥生賞（学術部門に貢献した女性医師）を頂き光栄かつ身の引き締まる思いです。ご支援、ご評価頂きました先生方に感謝致します。

私は昭和 41 年横浜市立大学医学部を卒業後、小児科学、小児神経学、神経内科学の卒後教育をアメリカにて終了し、1975 年に帰国、以来、瀬川小児神経学クリニックにて副院長として診療、研究、教育に携わって参りました。

院長、瀬川昌也先生が当クリニックを開設された初心・理念、即ち、“小児期に発症した神経・精神疾患を成人、老人まで経過をみて、その病態・病因をニューロンレベルで理解し、真の治療法を解明し患者さんに還元していくこと”に私自身共感し、瀬川昌也先生から学び、私自身も努力を重ねてきました。

研究の内容はこの度ご評価いただきました小児不随意運動症の研究（瀬川病、レット症候群、トゥレット症候群など）及び小児発症重症筋無力症などです。

この間多くの患者さん、家族から学び、国内学会、国際学会にても研究結果の発表を行い、多くの先輩、同僚、後輩、友人達と個人的にも親しくなる幸運に恵まれました。

若手教育にも診療の場で、また、10 年前から小児重症筋無力症研究会を結成し、世話人代表として小児神経内科学を対象とし年一回の研究会を行ってきております。

瀬川小児神経学クリニックとして多くの学会・研究会を主催し、多くの分野の専門家とも交流を深めて参りました。また、国内・国際的な共同研究も行ってきました。

厚生省・厚労省の研究費も受け種々の疾患の研究を行ってきております。いくつかの国内・国際患者さんの会にも長年にわたり協力してきております。また、多くの国内学会の評議員、役員の責も務めてきております。いくつかの国際学会の会員でもあります。American Neurological Association では本邦ただ一人の女性メンバーでもあります。

今後も更に精進・努力をし、医師としての任務・社会的責任を果たしていきたいと考えております。また、この考えが次の世代にも引き継がれていくことを夢みております。

2014 年 12 月 14 日瀬川小児神経学クリニック院長瀬川昌也先生がお亡くなりになり瀬川小児神経学クリニックは 41 年 2 か月の幕を閉じました。今後は、野村芳子小児神経学クリニックを 2015 年 8 月 1 日に開院し、生涯現役で患者さんに

寄り添った小児神経学の診療、研究、教育に努力していく考えです。

### 吉岡弥生賞を受賞して

江戸川支部 **岩本絹子**

このたび、日本女医会吉岡弥生賞という伝統と格式ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。日本女医会の山本纈子会長はじめ、推薦して下さった先生方、関係諸先生方に心より御礼申し上げます。

吉岡彌生先生は、私の母校東京女子医科大学の創立者でもございます。東京女子医大の前進である東京女医学校は、明治 33 年に「女性が自由に学び、社会に貢献できる人材を育成する場」として創立され、現在、我が国唯一、世界でも稀有な女性のみで医学教育を行う機関として 1 万人を超える女性医師を輩出しております。女性の社会的地位が低く、学ぶ場を得ることが難しい時代に、学び舎を創立され、また卒業生が世の中の役に立つようにとのお考えから、同窓会である至誠会を公益法人とされました。尊敬する彌生先生のお名前を冠した賞を賜りましたことは大変光栄なことであり、深く感謝申し上げます。

私は産婦人科医として、新たな生命の誕生と女性の生涯に寄り添い心と体のサポートをする医師として地域医療に尽して参りました。学生時代より地域医療に携わりたいと思っておりましたので、産婦人科という特定領域ではありますが、東京都江戸川区に同級生と共に開業し、34 年間ひとりの場所に根を張って、地域の産婦人科医療に貢献できていることに喜びとやりがいを感じております。また、平成 4 年より至誠会の理事を務め、副会長を経て 2 年前より代表理事長として至誠会が運営する病院、看護専門学校の経営にあたり、昨年 12 月からは東京女子医大の副理事長兼経営統括理事に就任し、経営と風土の改善に務めております。

今回の受賞を励みとし、彌生先生の理念である「至誠と愛」のもと、医師として初心に戻るとともに、女性が活躍できる職場環境の整備、社会貢献を通じた女性医師の地位向上を目指し、一層の精進を重ねて参る所存です。今後もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 荻野吟子賞を受賞して

鹿児島支部 **長柄光子**

2015 年 5 月 17 日、第 60 回日本女医会総会におきまして、



荻野吟子賞を授与されました。

推薦を頂いた小関温子副会長をはじめ選考委員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。昭和 49 年東京女子医科大学を卒業して麻酔学教室で学ばせて頂き、その後鹿児島の実家に帰り、開業医として、社会医療法人理事長として、毎日続けて来ました。次女がダウン症であったため、先代がやっていた社会福祉法人にさらに知的障害者通所授産施設を併設しました。医療、福祉いずれも、日本国の借金が多いと言う現実のもと制度改革が度々行われる中で、関係する施設は何としてでも、潰れることの無い様にと努力をしております。突然小関先生よりこの賞のお話を頂いたときは驚くばかりでしたが、インフルエンザに始まった肺の病気に罹患してしまい落ち込んでいたので、今後病気を乗り越え、人様のために命のある限り医療、福祉のために尽くしなさいとのことと解釈し、推薦をして頂く事にしました。

私は 3 人姉妹で、長女は慶應の医学部、次女と三女（私）は東京女子医大卒業の医師でした。長女は 54 歳で亡くなり、次女は 46 歳で亡くなりました。私一人が生き残っているわけです。2 人の姉たちが医師として世の中のために貢献したいと思っていた事はなにかといつも考えながら医療を続けています。しかし、私の人間力不足で思いだけで、実行はまだまだです。麻酔科の先輩である川真田美和子先生より「医者＝居る」、居なければいけないのよとの教えをかみしめながら、「荻野吟子賞」に恥じない医療人としての人生を心がけて過ごしていきます。

荻野吟子先生は発熱が続きながらも女性が医師になる試験を受けさせて貰えるように何年も何年も国家と戦われた信念を後輩の私たちが裏切ることのないように日々医師道に精進してまいります。

## 研究課題

自家間葉系幹細胞を用いた  
関節リウマチ骨軟骨破壊の制御

## 育児中の大きな励みに

弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座  
黒瀬理恵

この度、私の研究課題に対し学術研究助成を賜りご関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

私は学生時代ソフトテニスをしていましたので運動器に関する仕事をしたいと思い、平成 8 年新潟大学卒業後、出身地の富山医大整形外科（現富山大学）へ入局しました。大学院では間葉系幹細胞を用いた関節軟骨再生の研究を行いアメリカリウマチ学会からの student award を頂きました。その後、大学院 4 年目に結婚し長男を出産、主人とは別居

状態で子育てをしながら臨床、研究も続けるという状況でした。幸い、実家からの通勤で両親に育児を手伝ってもらいましたが、当直や時間外の検討会に出席できない事情が当時の整形外科教室では理解されにくく苦労を強いられました（これは今でも変わりません）。その後岩手医科大学整形外科へ移籍し家族で暮らすようになり、整形外科医としても臨床に携わらせてもらう傍ら臨床医という立場を活かして外来や手術で採取し得た検体を用いた軟骨再生研究も行っていました。そして長女出産と同時期に主人の異動があり、私も弘前大学整形外科へ移籍し今に至っております。

臨床医、そして育児中という立場では研究をする時間がなかなかとれませんが、現在関節リウマチを専門分野としており、これまでの研究経験をリウマチ基礎研究に活かせればと考えております。

今回の受賞は、育児中の私にとって大変励みになりました。また受賞の喜びは当然ながら、今後育児に携わる者のキャリアパスへの配慮を考える契機になればと念じてやみません。是非とも研究成果を出せるよう努めますので今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 研究課題

膵臓移植後の 1 型糖尿病再発  
に関する多施設共同研究

## 糖尿病の移植膵保護に向けて

東京女子医科大学内科学（第三）助教  
入村 泉

このたびは、私の研究課題をご評価いただき、伝統ある日本女医会学術研究助成を賜り、会長の山本續子先生、選考委員の諸先生方に厚く御礼申し上げます。身に余る光栄と存じます。

私は、東京女子医科大学医学部卒業後、同病院で卒後臨床研修を行い、内科学（第三）講座・糖尿病センターに入局致しました。入局後、大学院に進学、糖尿病性腎症患者さんに実施された腎移植のその後の腎症再発に関する病理組織学的検討を研究テーマに学位を取得致しました。大学院卒業後も、糖尿病性腎症患者さんに対する透析・膵・腎移植に興味を持ち、現在、研究・臨床に精進しております。

膵臓移植は 1 型糖尿病に対する根治的治療法として知られており、わが国でも多くの患者さんが本治療を受けております。しかしながら、移植膵が 1 型糖尿病の再発により廃絶する症例が散見されるようになりました。この病態を解明し、移植膵を保護する治療が必至です。その一環として、数種の膵特異的自己抗体の移植膵機能への影響をまず横断面的に検討したいと本研究を企画致しました。多数例の検討が

必要なためわが国の臓器移植実施施設とも共同研究いたします。今回頂きました助成金を有効に活用し、研究成果をあげられますよう誠心誠意努力して参りたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 研究課題

乾癬患者における電子スピン共鳴 (ESR) 測定による治療効果と治療満足度の検討

## 諸先生方の励ましのおかげです

弘前大学医学部皮膚科学教室医員

**皆川智子 (青森支部)**

私の研究を選んでくださった、選考委員ならびに会員の諸先生方に心より深く感謝申し上げます。

私は東北大学農学部中退後、実家のある弘前大学医学部に再入学、卒後皮膚科に入局し、学位を取得、助教に採用されるも第 1 子出産に伴い退職、2010 年に夫の留学先のペンシルバニア大学の皮膚病理部で皮膚病理や臨床研究を学び、帰国後は医員として、診療、研究、学生の教育に携わっています。

本研究では、乾癬患者さんと健常者の角層の違いを調べるため、ESR 法で角層を定量評価し、治療効果と治療に対する実際の患者満足度の相関性を解析します。また乾癬の重症度と肥満の関係を検討します。

受賞できたのは、女医会の諸先生方の温かい励ましのおかげです。生後 2 か月の娘を抱え、2013 年 4 月 1 日復帰し、疲弊していた 2013 年 5 月、仙台で第 2 回提言論文優秀賞を津田喬子前会長から授与され、諸先生方に励まして頂きました。今では考えられないほどの女性医師に不利な時代に、素晴らしい仕事をされてきた女医会の先輩方のお話を伺うと感服するとともに、子育てが大変なのは長い人生の一時だから、研究もあきらめずに続けたいと思いました。

日本女医会からの研究助成は非常に励みになります。誠心誠意努力しますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます

## 提言論文

女性が頑張りすぎない社会を

横浜市立大学附属市民総合医療センター

小児総合医療センター 助教

**武下草生子**

女性にとって、心身ともに、かつ社会的に健康な状態とは

どのようなことだろうか。私自身に当てはめると、まず心身が健康とは言えない。私は二人の子どもを育てながら大病院で小児科医として勤務している。いつも時間に追われて生活しており、特に朝と夕方は時間との戦いだ。朝は 5 時過ぎに起きて、お弁当と夕食の準備をしながら洗濯機を回す。帰宅後は夕食のしたくと片付けをし、子どもたちと話をしたり、勉強をみたりしているうちにあっという間に時間がたってしまう。休日も、たまった家事をする時間と勤務や研究会への出席等を、予定表とにらめっこしながら調整する。

少しでも時間を節約したいので移動はいつも車、運動不足は間違いない。食事驚かれるほどの早食いだ。時間に追われてストレスもある。あまり健康的な生活とは言えないだろう。

しかし社会的な健康という面ではどうだろう。幸いなことに職場の理解と協力をいただいて、常勤でつとめ続けることができています。患者さんの笑顔やご家族との会話の中から、仕事を続けるエネルギーをもらっていると実感する。そういう点では充実した毎日が送れていると思う。

女性が心身の健康を保ちつつ社会的な役割を果たす。それは今の日本ではとても困難であるように思う。家庭を持ちながら働く場合、女性の負担は非常に大きい。家事育児全般はもちろんのこと、学校や地域との関わりなど家庭に関することはすべて、仕事の有無にかかわらず母親が担うのが当然と考えられている。親が年老いてくれば介護も多くは女性の役割となる。仕事をしながらこれらのことをこなすには自分自身の健康は二の次になるし、仕事をセーブせざるを得なくなる場合もある。

女性の有業率は年々上昇しているが、年齢別でみると、子育て時期に一旦就業を中断する割合が高いいわゆる M 字カーブを描く。女性医師においても同様で、30 代で就業率が低下する。少子高齢化の進む現在、女性の就労は日本の経済力の向上のために必要であるが、少子化対策のためには働きながら子育てもしやすい社会を目指さなければ意味がない。それには女性・母親が働くことを前提とした社会の仕組みを整えていくべきだ。例えば父親が平日の日中に来ることを前提にした学校行事は設定されていないのに、母親に対してはそれが当然のようにになっている。行政や銀行の窓口も同様だ。われわれ医療機関も、子どもが病気になったら母親が連れてくるのが当然だと思っははいないか。女性がストレスなく働きやすくするためには、保育施設や学童保育の充実はもちろんだが、学校行事の設定日時を見直したり、行政や銀行、病院などの受付時間を延ばすなど、変えていけることはたくさんあるのではないかな。

これまでのように女性の努力だけに頼っていては働く女性のすそ野は広がらない。女性が頑張りすぎなくても、心身も、社会的にも健康な生活を送れるような社会になってほしいと思う。



## 提言論文

## Women's Health の向上のために

久留米大学医学部医学科2年

野中沙織

健康とは「身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であり、たんに病気あるいは虚弱でないことではない」(WHO憲章)と定義される。

本稿では女性の心身及び社会的健康 (Women's Health) 及びその支え方を考察する。

私の考える健康とは、完璧でなくても個々人が日常生活を送り、自らの定める目標を達成しようと努力できる状態である。例えば障害があり、健常者からは日常生活に支障があるように見えても、自身がその状態を受容し、前向きに目標に向かっていけばそれは健康だと考える。また、Women's Health の実現とわざわざ言わなくても、男女ともに健康を保てる社会こそが、日本の目指すべき社会像だと考える。

このような考え方のもと、国民の健康を維持・向上させるために以下の3点を提案したい。

### 1) 医学部における Women's Health に関する教育の充実

現在、国内の多くの医学部では、産科・婦人科の一部として、Women's Health の講義が行われているが、その内容は十分とは言いがたい。これに加え、日本では、子宮頸がん検診の受診率を考えてもわかるように、産科・婦人科の受診は敷居が高いと考えられており、女性自身への健康教育の場としては十分に機能しているとは言いがたい。このことから、女性自身が自身の健康を維持・向上していくためには産科・婦人科への受診勧奨だけでなく、内科等の日常的な受診の機会に患者に対する Women's Health に関する知識の提供が必要だと考えられる。そのためには、すべての診療科の医師が Women's Health に対するより実践的な知識を身につけることが必要であり、学部教育において、現在の教育で不足している避妊教育、性感染症、更年期障害等に関して、問診技術等も含めて受講することが必要である。

### 2) 学校教育における健康教育の充実

現在の学校教育において、生徒・児童が自らの身体・健康に関して学ぶ機会にはほぼ保健の授業のみであり、その内容は応急処置の初歩や社会における生活習慣病の概論、男女の性機能の違い等にとどまり、実際に生活していく中で生かしていくには物足りないものとなっている。そこで私は、従来の保健という科目とは別に、「健康」という科目を設置し、ワークショップや医療従事者による話などを通じて男女の別なく、人としてより健康に充実した人生について考えることを提

案したい。この中には現代の日本人女性がしばしば直面する結婚・出産・育児・介護等のライフイベントに関するディスカッションを含め、本当の意味で男女が活躍できる社会の下地作りを目指す。

### 3) 医療界における男女共同参画の実現

上記で広く社会における Women's Health の支え方について述べてきた。しかし、教育の成果が効果を示すには長い年月がかかる。そこでまず、国民の Women's Health の支え手となる医療界が Women's Health、ひいては Human Health の実現に向け、必要な人が必要なタイミングで働き方を変え、自分の大切な人を支えることができるシステムを導入し、ワーク・ライフ共に真の男女共同参画社会を実現することが必須であると考ええる。

## 公開講演会〈抄録〉

保育サポーターバンク制度の  
成果について  
—女性が輝いて働くために—

### 保育サポーターバンクの概要

群馬県医師会理事 今泉友一

平成 24 年 5 月に女性医師の出産・育児を理由とした離職防止を図るため、「保育サポーターバンク」を群馬県医師会に設立し、子育て中の医師への支援を開始した。子育て医師保育支援相談員は、医師のニーズに沿ったサポーター等の情報提供・紹介を行う。支援内容は、サポーター宅または医師宅で子どもを預かり、保育施設などへの子どもの送迎、病時・病後時保育などである。



## 支援の現場から—ともに輝く—

群馬県医師会保育サポーターバンク

子育て医師保育支援相談員 **松山治子**

3年前の母の日、設置に辿り着いたバンク。2名の利用者からスタートし現在90名の医師を99名のサポーターが支える規模になった。まず安全安心な支援を重要優先事項に掲げ、登録手続きの簡素化や勤務に影響ない土日祝日夜間の相談を可としている。ちょっと安心!と思いながらサポーターと共に持てる力を発揮し輝き続ける事を祈念している。

## 群馬県の女性医師の現状と今後の取り組み

群馬県健康福祉部医務課 医師確保対策室長

**歌代昌文**

群馬県においても女性医師の割合は全国と同様に年々増加しています。

このため、県では女性医師等就労支援を医師確保対策の重要な柱の一つとして位置付け、県医師会の保育サポーターバンクへの支援を行ってきました。今後もその支援を充実していくなど、女性医師が働き続けやすい環境の整備に取り組んで行きます。

## 保育サポーターバンクに支えられて～大学勤務と子育て～

群馬大学医学部附属病院 医療人能力開発センター講師

**菊地麻美**

群馬大学医学部附属病院に勤務する利用者へのアンケート結果から、大学勤務医は通常の診療業務に加え、本サポーターバンクを活用して、研修会やカン

ファランスなどに、より多く参加していることがわかった。利用者の評価は非常に高く、登録による「安心感」の指摘が多いことから、本サポーターバンク制度が大学勤務の女性医師の就労支援につながっていることが窺われた。

## 保育サポーターバンクが二世世代の女性医師の就労を支援

労働衛生コンサルタント・内科医

**斎藤知子**

群馬大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科医員（大学院在籍中）

**岡本彩子**

私は両親と祖母の支援を受け、仕事では先輩女医の「私もね」の共感と助けを受けました。60歳で娘と初孫が帰国した時、私がしてもらったことを次世代にと思いました。35年間フルタイムで仕事をしましたが、孫のために短時間勤務にし、保育サポーターを毎日数時間と病児保育をありがたく利用しています。仕事をする私を見てきた娘は、私が仕事を諦めず新しいワークライフバランスを取り、好きに料理や幼児服作りもするのを「励まされる」と受け取っています。

（斎藤知子）

現在群馬大学勤務で大学院生、2ヵ月後第2子出産予定です。2年前より育児サポーター制度を使わせていただいき、仕事を終わると子供と向き合う時間を第一に過ごしています。年齢的に早くはない出産であったものの、職場ではまだ下っ端。断れない仕事も動かせない立場も多くあります。母も働き続けられていること、支援を受け自分がある程度働けていることによって、次の妊娠にも前向きになれました。

（岡本彩子）

## 公益社団法人日本女医会 第60回定時総会議事録

平成27年5月17日（日）午前10時46分より、ホテルメトロポリタン高崎（群馬県高崎市八島222）において、第60回定時総会が開催された。

### 開会の辞

小関温子副会長より、開会の辞が述べられた。

司会の馬場安紀子理事より平成27年3月31日現在の会員総数1,358名に対し、出席者数83名、記名委任者数651名、合計734名であり、公益社団法人日本女医会定款第18条、第19条の規定により、会員総数の2分の1以上の出席があることから本総会は

適法に成立している旨が確認され、開会を宣した。

### 黙祷

平成26年度中に物故された会員18名の方々の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

### 会長挨拶

山本薫子会長より、議案の審議に先立ち挨拶があった。

### 報告

1) 小関温子副会長より、配布資料「平成26年度会務報告」に基づき会員動静、第59回定時総会での審議の結果、会費納入状況、理事会役員、理事会開催日、

部会開催日、各賞の選考委員会開催日等の開催に関する報告が行われた。

2) ナショナルコーディネータの前田佳子理事より、平成26年度からの新たな活動として、国際女医会からのニュースレターを日本女医会誌に掲載していることが報告された。その他、平成27年4月24日から26日に台北で開催された、西太平洋地域会議についての報告があった。また、平成28年7月28日から31日にウィーンで開催される第30回国際女医会議への参加の呼びかけがあった。

以上の報告につき、司会者が質問を求めたところ、質問がなかったため、引き



続き議長団、及び議事録署名人の選出に移った。

#### 議長団選出

司会より会場に対して議長団並びに議事録署名人の推薦について語ったところ、会場より「会長一任」の声があり、会長一任によって、議長団に中原千恵子会員、黒崎伸子会員、議事録署名人に金田八重子会員、村田郁会員が指名され、拍手多数で異義なく選出された。議長団は議長席に着席した。

#### 議事

##### 【第 1 号議案】

平成 26 年度事業報告承認の件

大谷智子副会長より、配布資料「平成 26 年度事業報告」に基づき説明が行われた。

##### 【第 2 号議案】

平成 26 年度決算報告承認の件

塚田篤子副会長より配布資料「平成 26 年度収支計算書」に基づき説明が行われた。

##### 【会計監査報告】

山崎トヨ監事より、平成 27 年 4 月 18 日に慎重かつ厳正な会計監査を実施し、その結果、適法かつ正確であることを確認した旨が報告された。

議長は第 1 号・第 2 号議案について質問等を語ったが、挙手がなかったため採決に入った。賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数（2 分の 1 以上）と認めた。

議長は以上の結果、第 1 号・第 2 号議案は原案のとおり承認可決した旨を述べた。

##### 【第 3 号議案】

平成 27 年度事業計画の件

大谷智子副会長より配布資料「平成 27 年度事業計画」に基づき説明があった。

##### 1. 研究助成

第 36 回学術研究助成の実施。

##### 2. 女性医師支援シンポジウム及びキャリア形成支援の普及啓発事業

第 8 回キャリア・シンポジウム報告書の作成、配布。

第 9 回キャリア・シンポジウムを平成 27 年 11 月 15 日に四谷・ルークホールにて開催予定。

##### 3. 日本女医会吉岡弥生賞

平成 27 年度日本女医会吉岡弥生賞の実施。

##### 4. 高齢者及び障害者への医療的ケア研修事業

高齢者医療、介護に関する講演会を開催の予定。（日程、開催地未定）

DVD「たんの吸引を安全に行うために」を販売。

##### 5. 全国公募等による公開講演会

市民公開講座への助成。

提言論文募集の実施。

##### 6. 荻野吟子賞

平成 27 年度荻野吟子賞の実施。

##### 7. 国際女医会活動

2015 年第 11 回国際女医会西太平洋地域会議（平成 27 年 4 月）に向けての準備。

##### 8. ブロック懇談会

鹿児島での開催を予定。

##### 9. MsACT（医学生及び若手医師対象支援

#### 活動）

女子医学生を対象とした英語セミナーを開催（開催日未定）。

##### 10. 十代の性の健康支援ネットワーク事業（ゆいネット）

平成 28 年 3 月 5 日にゆいネット全体報告協議会を開催予定。

##### 11. 小児救急事業

マニュアル本「どうしよう…子どもの救急」（日本語版・英語版）の販売及び配布。

#### 庶務部

1. 諸会議（理事会、総会等）の運営

#### 渉外部

1. 国際婦人年連絡会への参加
2. 国連 NGO 国内婦人委員会の活動
3. 内閣府男女共同参画局連携会議への参加
4. 厚生労働省健やか親子推進協議会への参加と活動

#### 広報部

1. 機関紙の発行
2. ホームページの更新と活用

#### ナショナルコーディネーター

1. 2015 年第 11 回国際女医会西太平洋地域会議（平成 27 年 4 月）に向けての準備
2. 国際女医会本部からの情報伝達
3. 日本女医会の活動状況を国際女医会本部へ報告

以上の報告の後、議長は第 3 号議案について質問等を求めたが、挙手がなかったため採決に入った。賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数（2 分の 1 以上）と認めた。

以上の結果、議長は、第 3 号議案は賛成多数とする旨を述べた。

##### 【第 4 号議案】

平成 27 年度予算の件

塚田篤子副会長より配布資料「平成 27 年度収支予算書」に基づき説明が行われた。

議長は第 4 号議案について質問等がなかったため採決に入った。賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数（2 分の 1 以上）と認めた。

以上の結果、議長は、第 4 号議案は原案のとおり賛成多数とする旨を述べた。

##### 【第 5 号議案】

次期および次々期総会開催地について

山本續子会長より、次期開催地については東京、次々期については、埼玉県大宮市において開催を予定しており、日程は当該年に限り第 2 土曜日、日曜日の 5 月 13 日、14 日とする旨が述べられた。

議長は第 5 号議案につき質問を求めたところ、以下の質疑応答があった。

質問：2017 年には香港で国際女医会の西太平洋地域会議が開催されるが、この日程はすでに本年 5 月の時点で決定しているはずなので、その日程を確認し、埼玉側に知らせてはどうか。

回答：2017 年の開催日については埼玉側の会場予約が関係しているが、念のため国際女医会には確認をする。

質問：特定資産の中に溝口昌子賞基金があるが、これについての今後この事業はど

のように展開してゆくつもりなのか。

回答：この基金は、故溝口昌子先生の御遺志により、溝口秀昭先生から 1000 万円をご寄附頂いたほか、他のご寄附を合わせて 1020 万円となっている。すでに平成 26 年度に溝口昌子賞規程が策定されており、来年度からの募集に向けて事業を展開してゆく予定である。

質問：会長に 2 つの提案をしたい。

一つは、退会に際しては、退会者に退会届を提出させ、なんらかのコントリビューションを得るようにしてはどうか。

二つ目は、最近の会誌には誤記が多く、資料等にも誤りがある。こうしたことに対する指摘を理事会に還元するためにも、誌上にコミュニケーションを取るコーナーを作るよう広報部で検討してはどうか。

回答：ご指摘ありがとうございます。いずれも、採用を検討したい。

庶務部長より回答：退会届については、すでに自主的に退会される方については、記入をお願いしている。

質問：退会を申し込んだ際にはそういったものは受け取っていない。

回答：それはいつのことか。

質問：昨年 9 月である。この場合は、そうした個々の問題を論じるのではない。もし、実際に退会届があるのであれば、今後はその記入を徹底するべきであるということを強調しておきたい。

その他の意見：退会者にはその理由を丁寧に問うといった対応が必要である。

以上の結果、議長から、退会者に関して可能な限り退会理由を把握し、今後の日本女医会の活性化に結び付ける必要があるという結論がまとめられ、理事会に対して今後の検討課題とするよう提起された。

議長は以上を以って第 60 回定時総会の議案の全ての審議が終了した旨を述べ、議長団は降壇した。

#### 表彰

- 1) 日本女医会吉岡弥生賞受賞者  
野村芳子、岩本絹子
- 2) 荻野吟子賞受賞者  
長柄光子
- 3) 学術研究助成金受賞者  
黒瀬理恵（弘前大学大学院医学研究科整形外科・医員）、入村 泉（東京女子医科大学 内科学（第三）助教）、皆川智子（弘前大学医学部皮膚科学講座医員）
- 4) 第 4 回提言論文受賞者（受賞者は欠席）  
武下草生子（横浜市立大学附属市民総合医療センター助教）、野中沙織（久留米大学医学部医学科 1 年）

#### 閉会の辞

大谷智子副会長より、閉会の言葉を述べ閉会を宣した。

午後 0 時 26 分閉会

# 追悼

## 山崎倫子 Yamazaki Rinko 先生

1919 年生まれ。1943 年、東京女子医学専門学校卒業。ハルビン医科大学付属市立病院、国立公衆衛生院を開設。1985 年から 1993 年まで、日本女医会会長を務めたほか、汎太平洋東南アジア婦人協会国際会長（1981～84）も務め、1987 年からは武蔵野市立北町高齢者センター所長。



## あり余るご好意に感謝

練馬支部 石原幸子

山崎倫子先生が、5 月 29 日、96 歳にて亡くされました。驚くと共に残念な気持ちで一杯です。ご存じの方も多いと思いますが、私が最も尊敬した先生を思い出しながら、在りし日の先生のお姿を皆様にお報せしようと思います。

昭和 50 年前後の日本女医会には偉い先生が沢山おられましたが、その中でも山崎先生は異彩を放ち輝いておられました。日本人には稀な長身で、姿勢正しく、グリーンやブルー系のスーツを愛用し、正面にきちっと座って会議に臨まれていたお姿をよく覚えています。当時の女医会は、まだ任意団体としての集まりでしたが、先生は、まず会の社会的位置付けをきちんとしようということで会を一般社団として法人化し、定款や規程を整備し、職員の雇用体制も整えて給与制度も公務員に準ずるように改訂され、また退職金制度もつくられました。それ以前の職員のボーナスなどは、会議で「これくらいにしますか」といった程度で決まっていたのです。

先生は、個人的にはまったく私欲のない方でした。

ある日、「私は子どもがいないから老人ホームをボランティアでやろうと思うの」と言われ、当時、ボランティアと言葉さえ珍しい時代に私は「そんな事できるの」と反問しましたところ、先生は、できるわよ」と自信をもっておっしゃいました。その後、「見に来てよ」と言われましたのでお宅に伺いましたところ、ご自宅の家の後方に 2 階建ての家ができ、そこにたくさんの老人が楽しそうに生活をしているのをみてびっくりしました。

お手伝いさんもすべてボランティアと伺い、先生の日頃の教育の成果だわと感心致しました。当時のダイアナ英国皇太子妃がご訪問された時も、その趣旨に感心されたのだと伺いました。先生は、ハルピンの英

国の女学校を卒業されたとのことで、その英会話は美しく、とても穏やかでした。

昭和 50（1975）年には、先生は日本女医会会長とされました、その間も英語の力を認められ、国連、ユネスコ本部等に出張され世界を見、時代を眺め、視野を拓けられました。診療、家庭とお忙しい中、いつ勉強されたのかと思いますのに、2 年毎の国際会議には必ず出席され講演をされておりましたが、その演題は今日 50 年後に問題となる事ばかりで、その先見の明には驚いております。

### ■ 山崎先生の国際女医会議講演における主な演題

昭和 41 年（1966） 日本女医会における女医の需要

昭和 49 年（1974） 水俣病メチル水銀中毒

昭和 57 年（1982） 老人の健康と管理 etc.

最後に、昭和 62（1987）年台湾で西太平洋会議の折、台湾の医師会長（男性）が山崎先生の英語のスピーチを聴かれ「日本にもこんなに上手な英語を喋る女医さんがいたのか」と驚嘆され、それをきっかけにその日の夕食に招待されました。私も便乗し、ごちそうになりましたが、大きなテーブルにずっと並んだお料理を楽しく頂いたことも良い思い出です。

山崎先生のお人柄や顔の広さで、私はたびたび便乗させて頂きましたが、いつもいつもお世話になりながら、最後の温かい手にさようならもできなかったことが、返す返すも残念です。

よく病氣と闘いましたね。そのたびに生還されるので、またきつと思ひ、伺えなかったのです。心よりお詫びしますと共に、一生の間有り余るご好意を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

またお会いすることを楽しみに生きて参ります。



## スケールの大きな人間性

副会長 小関温子

山崎倫子先生が平成 27 年 5 月 29 日、永久の旅立ちをされました。3 月 13 日深夜 12 時頃、呼吸困難を訴えられご入院、約 2 か月少して眠るように永眠されたそうです。6 月 6 日（土）午前 10 時から告別式が執り行われました。私は 6 月 3 日（水）夕方 6 時過ぎに先生のご自宅に伺い、ご冥福をお祈りさせていただき、先生の妹の月子様にお目にかかりました。優雅で美しく気品ある方で倫子先生の風情を想像させる方とお見受け致しました。倫子先生の母上は勝海舟の三男とご結婚されていますのでお孫様にあたります。

汎太平洋東南アジア婦人協会国際会長（1981～84 年）、国際連合第 37～39 回総会政府代表代理（1982～85 年）、そして日本女医会会長（1985～93 年）を歴任されました。国連総会においては 40 ページに及ぶ先生の考えを自らの言葉で「ソ連はアフガニスタンから直ちに撤退すべきだ」と英語でスピーチをされました。スピーチが終わると、各国代表が駆け寄り「よくやった」と握手を求められています。用意されたプレスリリース用の資料はあっという間に全部なくなったそうです。国際的に活躍されてそのスケールの大きさは日本人の枠を超え、優しくも厳しくもあり温かな人間性は多くの人々を魅了されたと伺いました。

また、先生は昭和 62（1987）年から武蔵野市立北町高齢者センター所長をつとめられました。このセンターは日本で初めて高齢者のデイケアとして設立されましたが、先生は高齢化の進む日本で高齢者が安心して利用できるセンターの設立を目指しておられました。この希望を叶えるべくご主人様の土地を武蔵野市に寄贈して、日本で初めての高齢者デイケアの設立が実現しました。



平成 7 年 2 月にイギリスの故ダイアナ皇太子妃がこのセンター来訪を希望されていると、エリザベス女王の広報官から伝えられた時の、倫子先生の驚きは想像に余りあります。この小規模センターよりも新しく設立された立派な施設をご推薦されたそうですが、ダイアナ妃はどうしてもとおっしゃられたそうです。「Help the aged」（高齢者を救う会）の団体のパトロンがダイアナ妃ということで倫子先生は日本における高齢者の団体（ウエルエージング協会）の副会長を務められてたこと、「Help the aged」にかかわっていたこともご訪問につながったようです。

私が日本女医会会誌 220 号に国際女医会会長と記載させていただいたことが間違いと会員の 1 人の先生から御指摘いただきましたが訂正させていただきます。月子様はこの件は伏せて頂いてお書き頂かないようにと仰られましたが、あえてお約束は守れず私の不徳の致すところを承知で皆様からの叱咤も覚悟の上でお伝えさせていただきます。先生は国際女医会会長に推薦されたにもかかわらず、当時、国の状況、差別などから韓国から会長を出して頂くように推薦されたそうです。しかし先生の業績、実行力は国際女医会会長に優るとも劣らないと思っております。

豊かな幼少期に美しい母上を 8 歳で亡くされ、当時東洋のパリとも言われたハルピンの生活で国際感覚を身につけられたと思われます。そして戦争という厳しい時代にもご苦労されていますが、東京女子医専（東京女子医科大学の前身）では吉岡彌生先生の「至誠」の二文字の薫陶を受けられたことも生涯の基礎となりました。戦中、戦後の動乱期を過ごされて、「人のために尽くしたい」が先生の人生であったと思います。

追悼文の機会を与えてくださいました山本續子会長、生前の倫子先生と深い親交があり、多くの資料をご提供くださった石原幸子元副会長のご尽力、先生のご著書『命をみつめて』をご恵贈くださいました監事山崎トヨ先生に心から御礼申し上げます。



# 国際女医会通信

4

THE LETTER FROM  
MEDICAL WOMEN'S INTERNATIONAL ASSOCIATION  
(MWIA)



## 2015 西太平洋地域会議レポート

### 国際女医会 西太平洋地域会議を開催して

国際女医会副会長（西太平洋地域担当）山本纈子

2013 年のソウルで開催された国際女医会議にて西太平洋地域担当の副会長に指名され、地域会議を開催する役務を課せられ、持ち回りで担当する台湾女医会のお世話で、本年 4 月 24 日～26 日に台北にて西太平洋地域会議を開催致しました。

台湾女医会会長の Sophie Lee 先生は旧知の方で、会の次第など頻回に E メールで相談しました。しかし、微妙な意見の相違があり、是正は、face to face でないと無理と考え、ナショナルコーディネーター（NC）の前田佳子理事の同行を願って 2014 年 11 月に台北に赴き、台湾女医会の独断となっていた会議のテーマと演者の人選に配慮するよう要請し、充分ではありませんが、地域の参加各国に発言の場を設けるよう努めました。

学術プログラムも重要ですが、3 年に 1 回、参加各国が自国の状況報告とこの期の活動目標を決めるビジネスミーティングも非常に重要で、今期の活動は、いくつかのテーマを決めて各国の状況を把握し、国際女医会議に発表することになりました。今回の会議は 2014 年に開催されるはずでしたが、台湾女医会の都合で 1 年遅れていますので、活動時期が 1 年短くなっており、慌ただしいことです。

また、このところの最も重要な問題は、ソウルでの総会で入会を許可された中国が台湾と香港を中国の支部としなければ政府の意向により会費を払うことができないと

主張しているようで、1 人も参加しませんでした。50 年以上前から China の名で会員となっている台湾に China の名称を Taiwan に変えて貰って China の名で入会した中国女医会には政治を持ち込むことのないよう努力してほしいと言うのがミーティングに参加した人たちの思いでした。2017 年は香港の Cissy Yu 先生が副会長になり、香港で開催されますので、此处での中国の出方が注目されます。

当会員の皆様には 2016 年のウイーンでの国際女医会議、2017 年の香港での西太平洋地域会議へのご出席を計画下さるようお願いいたします。

尚、会の詳細は引き続き前田 NC の報告をご参照くださるよう、お願いいたします。

### 日本女医会からは 10 名が参加

ナショナルコーディネーター 前田佳子

2015 年 4 月 24～26 日、台湾の台北市において国際女医会西太平洋地域会議（Western Pacific Regional Conference of MWIA）が開催されました。2011 年の東日本大震災の直後に東京で開催予定だった会議が中止になったため、7 年ぶりの開催となりました。台湾女医会の Dr. Lee が国際会議の会長を務め、西太平洋地域の会長である山本先生と共に会議を運営されました。予定が合わずに参加出来なかった先生方、通常の学術集会とは一味違う楽しい体験を逃して残念だったと言わざるを得ません。次回は是非とも参加されることをお勧めいたします。

西太平洋地域に所属している台湾、日本、オーストラリア、香港、韓国、フィリピン、モンゴルの 7 ヶ国に加え、今回はニュージーランドからの参加がありました。参加者は医学生を含めて全体で約 400 名で、日本女医会からは山本纈子、小関温子、山崎トヨ、平敷淳子、小田泰子、馬場安紀子、鈴木カツ子、樋渡奈奈子、濱田啓子、前田佳子（敬称略、順不同）の 10 名および小田先生のご友人が参加致しました。



## 参加日記

### 4 月 24 日 Regional meeting と観光

Regional meeting が行われ、各国の活動報告、次回の開催国決定、次期西太平洋地域会長選出が行われました。今回の西太平洋地域会議は 2017 年に香港で開催されることが決定いたしました。次期（2016～2018 年）西太平洋地域の会長は香港の Dr.Yu が選出されました。

Meeting の後、総勢 50 名くらいが徒歩で観光に出発しました。大通りをいくつも越え、歩くこと約 15 分で辿り着いたのは台湾総督府でした。煉瓦造りの立派な建物は日本が大正 8 年（1919 年）に新庁舎を建設してから 96 年が経過した今でも（第二次世界大戦で損壊した部分は改修された）、台湾政府によって大切に維持され、現在も公務に使用されています。館内には歴史館があり、2 グループに分かれて見学した後、Secretary General の曾永權さんと共に記念撮影を行いました。一行は更に 10 分ほど歩いて外務省を訪問しました。台湾での国際会議開催に歓迎の挨拶をしてくださった Vice Minister の史亞平さんは美しい女性でした。

### 4 月 25 日 Opening ceremony と Gala party

9 時からのオープニングセレモニーは、ミニのチャイナドレスを着て参加国の旗を持った若い女性が舞台を彩った後、Ave Maria の透き通る声が会場を包み込みました。午前中は特別講演が 5 演題行われ、山本繡子会長は「長寿社会における高齢者への暴力」というタイトルで日本における現況について講演をされ、平敷淳子先生が座長

を務められました。午後は 6 つのシンポジウムとそれに関する口演が行われました。私は女性医師のワークライフバランスのシンポジウムで台湾およびオーストラリアの Dr. と共に司会兼シンポジストをさせていただき、更に「日本における女性泌尿器科医のワークライフバランス」について口演いたしました。会場からの質問やコメントも多く、活発な討議が行われました。会場は 100 名ほどが入る部屋でしたが、席が足りなくなるほどの盛況で、特に台湾大学的女子医学生が沢山参加して下さいました。台湾でも女性医師が増えており、ワークライフバランスに対する関心の高さを肌で感じることができました。

同日の夜には 101 というアジアで 3 番目の超高層ビルで夜景を眺めながらの Gala パーティが開催されました。途中からは各国ごとに先生方が舞台上がり、それぞれの国の歌を披露するカラオケ大会となりました。日本は「さくらさくら」「昴」「幸せなら手を叩こう」を全員で熱唱し、拍手喝采を浴びました。最後は参加者全員で踊りながら会場を練り歩き、楽しいひと時を過ごすことができました。

### 4 月 26 日 市内の病院見学

最終日は小児病院と老人病院、合わせて 4 つの病院の見学でしたが、飛行機の時間の都合で、私は残念ながら参加できずに台湾を後にしました。

2016 年にウィーンで開催される国際女医会議に向けてすでに準備が始まっています。是非多くの会員の先生方と一緒に参加して、楽しいひと時を共有したいと思います。

See you soon !



## 女性医師再教育センターの ご紹介

▶ <http://www.twmu.ac.jp/CECWD>

東京女子医科大学 男女共同参画推進局  
女性医師再教育センター長

檜垣祐子

「東京女子医科大学 男女共同参画推進局 女性医師再教育センター」は平成 18 年 11 月に設立され、女性医師の復職支援を目的として活動を続けております。今回、この場をお借りして、私共の活動内容を先生方にご紹介させて頂ける機会を頂きました事を感謝申し上げます。

女性医師再教育センターは「女性医師再教育-復職プロジェクト」と「教育・学習支援プログラム（e-ラーニング）」の 2 つの柱から構成されており、前者におきま

しては日本赤十字社や社会福祉法人恩賜財団済生会と連携し、相談者の居住地や出身大学を問わず、復職に繋げる第一歩として実地研修の支援を無償で行っております。平成 27 年 3 月現在、200 名を超える全国の先生方からご相談をいただいております、8 割は他大学をご卒業の先生方です。80 名が実際に研修を行いました。復職したいが相談する場所もなく、おひとり悩まれていた先生が、当センターへのご相談を契機に面談でお話しされているうちに

色々な気付きを得られ、自信を取り戻されています。研修なしでご自身で復職に向けて進まれる先生もおられました。

折角医師の資格を取得されても女性医師の場合は出産・育児、配偶者の転勤、介護等の事情により、止むを得ず臨床の現場を離れざるを得ないことが少なくありません。しかし、一度離職してしまうと日進月歩で進む臨床の現場に戻り難くなる現実があり、一気に復職を果たすのはハードルが高過ぎて困っておられるケースは多いようです。経歴や現在の環境、到達目標も様々ですので、お一人ひとりに合わせた復職ステップの設定が求められます。

このようなニーズに応えるべく、当センターでは申請された先生方に個別に面談を行い、研修日数や時間、研修内容も含めてオーダーメイドの研修プランを作成しています。具体的には、研修後にその病院で勤務することを条件とせずに研修させて頂ける施設を確保しています。これらの研修病院は日本赤十字社や社会福祉法人恩賜財団済生会病院を始め、センターの理念にご賛同頂いてい

る医療機関のご協力によるものです。全国各地にありますので、研修後の勤務先や勤務形態が自由に選択できるようになっています。古いデータになりますが、平成 25 年の調査では休職中であった 12 名の先生方が研修後には全員復職を果たされています。

また、当センターのもうひとつの柱である後者の「教育・学習支援プログラム (e-ラーニング)」は、医療従事者であれば男女を問わず、どなたでもご利用いただけるプログラムです。1 講義は約 20 分で、女性医師の働き方に関する「キャリア」、「臨床基本」、疾患や治療に特化した「臨床実践」などのカテゴリー別に 100 講義以上を無料公開しています。平成 27 年 3 月現在で約 4,700 名のご登録を頂いています。なお、本プログラムは、平成 22 年「第 7 回 日本 e-ラーニング大賞」において文部科学大臣賞を受賞させて頂く事が出来ました。

当センターでお力になれそうな先生がおられましたら、女性医師再教育センター HP <http://www.twmu.ac.jp/CECWD/> までご紹介頂ければ幸いに存じます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## ご紹介

## 『スペイン風邪流行とその時代』

文芸社／定価 1600 円 (+税)

小田泰子 著



本書は宮城支部の小田泰子先生が、2011 年 (平成 23 年) に上梓された御著書の新装版となるものです。最初に先生が本書を発行された折から 4 年のうちには、エボラ出血熱のほかにも、日本国内でもデング熱の小流行などがありました。小田先生が膨大な資料から起こされた「微生物とヒトとの戦い」の記録は、現代の私たちへの警鐘ともなるのではないのでしょうか。ぜひご一読下さい。(文責：広報部)

## 会員動静 (平成 27 年 6 月 30 日現在・敬称略)

|     | 氏 名   | 支 部 | 卒 年    |
|-----|-------|-----|--------|
| 入 会 | 黒瀬理恵  | 青森  | (平 8)  |
|     | 坂元壽恵  | 群馬  | (平 7)  |
|     | 和田由香  | 茨城  | (平 4)  |
|     | 岩本絹子  | 江戸川 | (昭 48) |
|     | 辻本昌理子 | 兵庫  | (平 15) |
| 退 会 | 15 名  |     |        |

|     | 氏 名     | 支 部 | 卒 年    |
|-----|---------|-----|--------|
| 物 故 | 三品房子    | 宮城  | (昭 24) |
|     | 緒方キヨ子   | 大田  | (昭 16) |
|     | モヒト サリサ | 目黒  | (昭 41) |
|     | 山崎倫子    | 都下東 | (昭 18) |
|     | 藤井奈保子   | 静岡  | (昭 61) |
|     | 住田静子    | 広島  | (昭 18) |
|     | 星加光江    | 愛媛  | (昭 20) |
|     | 榎野不二枝   | 福岡  | (昭 9)  |
|     | 坂梨ミチ    | 宮崎  | (昭 19) |
|     |         |     |        |



## 公益社団法人日本女医会

## (((理事会議事録)))

## 平成 26 年度第 8 回理事議事録

## 1. 日時 平成 27 年 3 月 15 日 (日)

午後 2 時 00 分～4 時 00 分

## 2. 場所 日本女医会 会議室

## 3. 出欠席者

## 1) 出席者

## 理事

大谷智子 小関温子 塚田篤子  
 岩崎恵美子 川村富美子 齊藤恵子  
 田辺晶代 津田喬子 中川やよい  
 中田恵久子 馬場安紀子 樋渡奈奈子  
 藤川真理子 前田佳子

## 監事

山崎トヨ

## 2) 欠席者

## 理事

山本繭子 江畑理佳 澤口聡子  
 鈴木カツ子 諏訪美智子 田中優子  
 花岡和賀子 福下公子 宮崎千恵  
 矢口有乃 吉馴茂子

## 監事

松井比呂美

## 1. 継続審議事項

## 1. 第 60 回定時総会について

(馬場理事) &lt;継続&gt;

- ・馬場理事より、総会案内と参加申込の書類について説明があった。

- ・学生アルバイトの報酬について

学生アルバイトについては、女医会から群馬支部に必要な人数を伝え、総会分のみ日当を負担することを決定した。

- ・支部・本部連絡会の議題について  
 支部・本部連絡会の主な内容は、担当理事と、各支部の会員との顔合わせとすることを決定した。

## 2. 溝口昌子賞規程について

(前田理事) &lt;承認&gt;

- ・前田理事より、溝口昌子賞規程案が提示され、以下を修正の上承認された。

## 第 1 条

溝口昌子氏が → 溝口昌子氏の御遺志により

公益日本女医会 → 公益社団法人日本女医会

## 第 5 条

常勤医として勤務してスタッフ以上の役職に就いており → 常勤医として役職に就いて勤務しており

## 第 7 条

第 3 項 研究に関する自著または共著論文 → 研究に関する自著を含む共著論文

## 3. 第 9 回キャリア・シンポジウムの日程について (前田理事) &lt;承認&gt;

- ・協議の結果、開催日を H27 年 10 月 18 日に決定した。

## 4. 支部と担当理事について

(大谷副会長) &lt;承認&gt;

- ・大谷副会長より、資料に基づき各理事の担当地域が発表され承認され、5 月の支部・本部連絡会において各支部からの参加者にその旨伝達されることを決定した。

- ・その後大谷副会長から、今後は、HP の支部だよりを充実させる意向である旨が述べられた。

- ・また津田理事からは、「日本女医会〇〇支部」という名称を使用すること自体には問題がない旨を明確に各支部に示したほうがよいとの意見が述べられた。

## 5. 東日本大震災被災地への継続的支援について (山崎監事) &lt;継続&gt;

- ・山崎監事より福島県の NPO 法人への支援が提案され、具体的な内容と金額については、次回以降に持ち越された。

- ・また、山本会長からの宮城への支援についての意見も同様に持越しとなった。

## 2. 審議事項

## 1. 平成 27 年度理事会開催日について

(馬場理事) &lt;継続&gt;

- ・馬場理事より、定例理事会の開催を第 3 土曜日の固定ではなく、日曜日開催もしたいとの意見が述べられた。これに対して前田理事より、理事会開催日は原則第 3 土曜日を前提(新年会を除く)として理事立候補も行われている旨が述べられ、疑問が呈された。

- ・また、山崎監事からは、理事会開催日決定については、以前より、まず会長のスケジュールを確認した後に日程が決定されている旨が述べられ、一同の合意を得た。

- ・以上から、今理事会が欠席者多数の点も鑑み、翌日以降にまず山本会長のスケジュールを確認、それを原案に反映させた上で、各理事の意見を募り、次回の理事会に於いて最終的に日程を決定することとした。

## 2. 平成 27 年度版会員名簿の有料化について (馬場理事) &lt;承認&gt;

- ・平成 27 年度版会員名簿の価格について協議した結果、頒布方法を事前申込制とし、価格を 1,000 円(暫定)とすることを決定した。

## 3. 第 61 回定時総会開催地について

(中田理事) &lt;承認&gt;

- ・平成 28 年度の定時総会開催地を埼玉県大宮市とする旨承認された。

- ・日程は、平成 28 年 5 月 14 日に決定。前日 13 日に懇親会等を行うかについては、今後埼玉支部内でも協議を行う。会場は、大宮パレスホテルの予定。

## 4. 平成 27 年 2 月会計報告承認

(塚田副会長) &lt;承認&gt;

- ・塚田副会長より、特定資産のうち国際女医会基金より 100 万円、吉岡弥生賞基金から 25 万円を取り崩した旨報告があった。

- ・平成 27 年 2 月会計報告が承認された。

## 5. 平成 26 年度第 7 回理事会 (2 月) 議事録承認 &lt;承認&gt;

以下を修正の上、平成 26 年度第 7 回理事会 (2 月) 議事録が承認された。

## 5. 平成 62 年度第 6 回理事会 (1 月) 議事録承認

義捐金 → 義援金

問題とならない → 問題とならないのではないか

## 3. 報告事項

## 1. 各部、NC 報告

## 1) 庶務部報告

- ・日本女医会吉岡弥生賞受賞者について

馬場理事より、平成 27 年 2 月 21 日

の日本女医会吉岡弥生賞選考会において以下の 2 名の授賞が決定した旨報告があった。

医学に貢献した部門

野村芳子氏（千代田支部）

社会に貢献した部門

岩本絹子氏（非会員）（当時）

・第 19 回ブロック懇談会について

中川理事より、平成 27 年度のプロック懇談会の開催地に鹿児島県を予定している旨報告があった。日程は、現在調整中。

## 2) 広報部報告

・会誌広告について

田辺理事より会誌 222 号及び、会誌パンフレット作成の進捗について説明があったほか、来年度以降の会誌広告については、製薬会社のみならず、あたらしい分野の広告も視野に入れている旨報告があった。

## 3) 渉外部報告

藤川理事より、国連 CSW（婦人の地位委員会）に出席した旨が述べられた。

## 4) 学術部報告

・第 35 回学術研究助成受賞者について

前田理事より、平成 27 年 2 月 21 日の学術研究助成選考会において以下の 3 名の授賞が決定した旨報告があった。

入村 泉氏（東京女子医科大学内科学（第三）助教）

黒瀬理恵氏（弘前大学大学院医学研究科整形外科・医員）

皆川智子氏（弘前大学医学部皮膚科学講座）

・HP「新しい治療とトピックス」について

前田理事より、HP「新しい治療とトピックス」に 3/10 に新たに 1 本の記事が追加された旨報告があった。

## 5) 事業報告

・荻野吟子賞受賞者について

津田理事より、平成 27 年 2 月 21 日の吉岡弥生賞選考会において以下の 1 名の授賞が決定した旨報告があった。

長柄光子氏（鹿児島支部）

## 6) ナショナルコーディネータ報告

・前田理事より、台湾での国際女医会

西太平洋地域会議への参加状況の報告と、参加の呼びかけがあった。

## 2. 各委員会報告

### 1) 長寿社会福祉委員会

・小関副会長より平成 26 年度講演会（H27.2/28）について報告があった。

### 2) 十代の性の健康支援ネットワーク事業委員会

・津田理事より、3/19 に日本女医会会議室に於いて、平成 26 年度の役員会報告会を開催する予定である旨報告があった。

### 3) MsACT 委員会

・藤川理事より、平成 26 年度英語セミナー（H27.2/28）について報告があった。

## 3. その他

### 1) 冊子「なごやか」への執筆について

・津田理事より、冊子「なごやか」の執筆を事業部が統括するにあたって、各理事に執筆の呼びかけがあった。またその際に、今後執筆料の一部を会に寄附というかたちをとることを検討してもよいのではないか、という提案があった。

### 2) 山崎理事より、理事会への理事の出席について、会ごとに出席率を算出してはどうかとの提案があった。

### 3) 齊藤理事より、H26 年 11/16 に開催された第 18 回ブロック懇談会（岩手）に関するお礼が述べられた。

## 公益社団法人日本女医会

# (((理事会議事録)))

## 平成 27 年度第 1 回理事会議事録

### 1. 日時 平成 27 年 4 月 18 日（土）

午後 3 時 30 分～5 時 30 分

### 2. 場所 日本女医会 会議室

### 3. 出欠席者

#### 1) 出席者

|       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 山本鑛子  | 大谷智子  | 小関温子  |
| 塚田篤子  | 岩崎恵美子 | 川村富美子 |
| 澤口聡子  | 田辺晶代  | 津田喬子  |
| 中川やよい | 中田恵久子 | 花岡和賀子 |
| 馬場安紀子 | 樋渡奈奈子 | 福下公子  |

藤川真理子 前田佳子 矢口有乃  
吉馴茂子

#### 監事

松井比呂美 山崎トヨ

#### 2) 欠席者

#### 理事

江畑理佳 齊藤恵子 鈴木カツ子  
諏訪美智子 田中優子 宮崎千恵

## 1. 継続審議事項

### 1. 第 60 回定時総会について

（馬場理事）＜承認＞

- ・馬場理事より総会当日のタイムスケジュールについて説明があり、特に 8 時 30 分からの理事の打ち合わせについて賛否を求めた結果、打合せはなしとし、議長打ち合わせを 8 時 45 分から 9 時 25 分まで行うこととした。
- ・総会当日朝の理事会については、開催しないことを決定した。
- ・総会での役員の役割を決めた。

### 2. 平成 27 年度理事会開催日について

（馬場理事）＜承認＞

- ・馬場理事より、メールによる理事会開催日の希望の集計結果が発表され、それに基づいて作成された日程表について説明があった。
- ・部会の開始時間は、各部ごとに時間を調整し、14:30～15:30 の間に開催することとした。
- ・津田理事から、キャリア・シンポジウムの開催日を 11/15（日）とする件につき、理事会での最終的な承認を行うべきであるとの意見が述べられ、これに基づいて司会者が賛否を問い、賛成多数で日程が承認された。

### 3. 支部と担当理事について

（大谷副会長）＜継続＞

- ・大谷副会長より、地域の担当理事を決定した旨報告があり、今後の担当制の運用について説明があった。
- 1. 災害発生時の対応・被災地域との連絡、支援等を円滑に行えるよう整備する。
- 2. 支部の名称許諾の推進・5 月の支部・本部連絡会において再度説明をし、許諾の申請をお出し頂けるようお願いをする。

3. HP の「支部だより」の充実・「支部だより」の運用方法を検討する。
- ・「支部だより」が現在凍結されている件については、津田理事より公益法人の移行に際して、支部の位置づけが確定できない時期があったため、一時的に凍結したかたちとなっている旨補足の説明があった。
4. 東日本大震災被災地への継続的支援について (山崎監事) <継続>
- ・山崎監事より、福島県に対する支援について説明があった。
  - 1. 福島県郡山市「NPO 法人郡山ベップ子育てネットワーク」への遊具寄贈について
  - 2. 茨城支部主催の被災地見学と講演会に対する援助について
  - ・福下理事より、まず正式な寄附依頼を山本会長宛てに出して頂くよう依頼し、それに基づいて理事会で審議するという手続きを経るべきではないかとの意見が述べられた。
  - ・両支部から申請書の文書を出して頂き、次の理事会において承認に向けて検討することとなった。

## 2. 審議事項

1. 平成 26 年度事業報告及び決算の承認 (松井監事 / 山崎監事) <承認>
2. 静岡県掛川市「吉岡彌生賞」後援について (山本会長) <継続>
- ・山本会長より、静岡県掛川市教育委員会より要請があった「吉岡彌生賞」の後援については、まず掛川市に名称の変更を求め、その後の対応によって後援を決めることが提案され承認された。
  - ・また山本会長からは、「吉岡彌生賞」及び「萩野吟子賞」の名称を、商標として登録することが提案され承認された。登録については、事務局を通じて特許事務所に依頼することとした。
3. 平成 27 年度公開講座助成について (津田理事) <承認>
- ・宮城県女医会からの助成申請があった「産婦人科医から見た性差医療～いつまでも輝く貴方でいるために～」

について検討の結果、5 万円の助成を承認した。

- ・また、来年度以降の助成募集の期間については、津田理事より事業部案として、募集期間を長めにとることが提案され、承認された。
4. ゆいネットの平成 27 年度活動について (津田理事) <承認>
- ・津田理事より、3/19 に開催されたゆいネット報告会について報告があり、以下の内容が承認された。
- ゆいネットの平成 27 年度予算 30 万円のうち、全国 4 か所に 5 万円ずつの資金援助を行い、残りの 10 万円を他の活動に充てる。不足分については、外部資金を獲得することとする。また、平成 28 年 3/5 には、東京でゆいネット全体の報告会を開催する。
5. 役員慶弔費等内規の変更について (馬場理事) <継続>
- ・馬場理事より資料に基づき、役員慶弔費等の内規について説明があり、内容を各自検討し、次の理事会で協議することとなった。
6. 平成 27 年 3 月会計報告承認 (会計部) <承認>
- ・平成 27 年 3 月会計報告が承認された。
  - ・また山崎トヨ監事より、理事会開催前に平成 26 年度会計監査があった旨報告があった。
7. 平成 26 年度第 8 回理事会 (3 月) 議事録承認 <承認>
- 平成 26 年第 8 回理事会 (3 月) 議事録が承認された。

## 3. 報告事項

1. 各部、NC 報告
- 1) 庶務部報告
- ・花岡理事より会員動静のほか、2015 年度版の会員名簿の進捗について報告があった。
  - ・中川理事より、鹿児島で開催予定の第 19 回ブロック懇談会について日程調整中である旨報告があった。
- 2) 広報部報告
- ・岩崎理事より、会誌 222 号、223 号について報告があった。
  - ・また、会の新しいパンフレットが完成

した旨の報告があった。

## 3) 渉外部報告

- ・小関副会長より、4/15 に開催された NGO 日本女性大会第 2 回準備委員会出席の報告があった。
- ・藤川理事より国際婦人年連絡会と日本女医会との関係性についての説明があった。

それに対して、山本会長から同会の政府へ送られている要望書等について、日本女医会の意向がどの程度反映されているのか、また政治的立場についての質問があった。

これに対して、藤川理事からは、同会には政治的立場は左右どちらの団体も所属しており、日本女医会がいずれかの一定の政治的な立場にとられる必要はないとの回答があった。これに対して山本会長からは、現状では同会の中心的運営者の意向が会の総意となっているのではないかと、との疑問が呈された。藤川理事からは、同会への所属が重要なのは、同会が内閣府等の政府関係機関に対して政策提言ができる団体である点であり、同会内において日本女医会としての意見を発信することが重要である。また、アラブ女性交流事業によるヨルダン等との国際的関係を保つためにも所属団体であることが必要であるとの回答があった。

## 4) 学術部報告

- ・前田理事より、溝口昌子賞規程の最終版の提示があった。

## 5) 事業部報告

- ・冊子「なごやか」執筆依頼状況

## 6) ナショナルコーディネータ報告

- ・前田理事より、国際女医会が President-Elect、Secretary-General、Treasurer Regional Vice-President の 4 つの役職の立候補者を募集している旨報告があった。

## 2. 各委員会報告

### 1) 男女共同参画事業委員会

- ・前田理事より、第 8 回キャリア・シンポジウム報告書が 4/20 に完成する旨報告があった。

以上





## Our pursuit. Life's potential.®

医療を通じて、人々の「健康」に向き合い、「生涯」に向き合い、  
そして、もっともっと患者さんに寄り添える医薬品・医療機器の企業でありたい。

### A型ボツリヌス毒素製剤 薬価基準未収載 生物由来製品 毒薬 | 処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

# BOTOX VISTA®

## ボトックスビスタ® 注用50単位

1バイアル中A型ボツリヌス毒素50単位含有



### Juvéderm™ Vista

## ジュビダームビスタ® ウルトラ

一般的名称：ヒアルロン酸使用軟組織注入材 販売名：ジュビダームビスタ ウルトラ  
医療機器承認番号：22600BZX00108000 高度管理医療機器

### Juvéderm™ Vista

## ジュビダームビスタ® ウルトラ プラス

一般的名称：ヒアルロン酸使用軟組織注入材 販売名：ジュビダームビスタ ウルトラ プラス  
医療機器承認番号：22600BZX00109000 高度管理医療機器



処方箋医薬品<sup>注)</sup>

プロスタマイド誘導体

# Glash Vista®

## グラッシュビスタ® 外用液剤 0.03% 5mL

ビマトプロスト外用液剤 注)：注意—医師等の処方箋により使用すること 薬価基準未収載



※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)

アラガン・ジャパン株式会社

〒150-6035 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号  
恵比寿ガーデンプレイスタワー35階

TEL：0120-404-100 (9：00～18：00/土日祝日及び当社休業日を除く)

FAX：0120-407-100 (24時間受付)

<http://www.allergan.jp>

JAP/0201/2015  
2015年3月作成

## 日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集致しますので、募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申し上げます。

### 募集要項

1. 対象 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡弥生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
2. 候補者の推薦 日本女医会員による推薦が必要である。
3. 提出書類 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
4. 申込期限 平成 27 年 12 月 25 日（当日消印有効）
5. 表彰 平成 28 年 5 月 15 日開催の第 61 回日本女医会定時総会（京王プラザホテルにて開催予定）において行い、賞状、記念メダルおよび副賞を授与する。副賞は 5 万円とする。
6. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：事業部）

## 日本女医会 吉岡弥生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡弥生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

1. 対象 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各 1 名に授与する。  
1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
2. 候補者の推薦 日本女医会員 2 名以上の推薦が必要である。
3. 応募方法 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局まで簡易書留にて郵送する。  
業績目録 1) 「医学に貢献した女性医師」に応募の方 ●査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者 3 編以上を含む 5 編の全文 ●上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者 7 編以上を含む 10 編の論文名、著者名と抄録 2) 「社会に貢献した女性医師」に応募の方 ●国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書 1) 2) に共通の業績 ●国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等 ●国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
4. 申込期限 平成 27 年 12 月 25 日（当日消印有効）
5. 選考及び発表 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
6. 表彰 平成 28 年 5 月 15 日開催の第 61 回日本女医会定時総会（京王プラザホテルにて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞を授与する。
7. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：庶務部）

## 第 36 回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成 24 年 4 月に公益社団法人に移行いたしましたので、第 33 回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。

### 記

1. 助成の趣旨：後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
2. 助成金額：1 件 30 万円まで、採択件数は 3 件以内。
3. 申し込み手続き：
  - 1) 応募資格
    - ①申請締切時において満 45 歳未満の日本国内在住の女性医師。
    - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
    - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求めることがある。
  - 2) 助成期間 原則 1 年間。同一人が重ねて申請をする場合は 5 年以上の間隔をおくこと。
  - 3) 応募方法 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/joseikin.html>) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社) 日本女医会 office@jmwa.or.jp
  - 4) 申込期限 平成 27 年 12 月 25 日必着。
  - 5) 選考及び発表方法 選考委員会において選考の上、平成 27 年 3 月開催の日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
  - 6) 助成金の贈呈 平成 28 年 5 月 15 日開催の日本女医会総会の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること。
  - 7) 被授与者の本会に対する報告
    - ①平成 29 年 9 月 8 日までに研究経過報告書(日本女医会誌掲載用)と収支報告書を提出。また、ホームページ「学術研究助成受賞者の軌跡」欄 (<http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html>) にも寄稿することを承諾する。
    - ②被授与者は、本助成金授与後 3 年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の別刷 10 部を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
  - 8) 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

### 2015 年度会員名簿

2015 年度版会員名簿の作成にあたり、本年 5 月に会誌 222 号に同封して掲載事項確認ハガキを皆様にお送り致しております。第 2 次締切を 8 月 31 日とさせていただきますので、未返送の方はご返送下さいますようお願い申し上げます。尚、ハガキのご返送がない場合、またハガキに不表示のご希望がない場合には、すべての項目を名簿に掲載させていただきますのでご了承下さい。(庶務部)

### 寄附者一覧

(敬称略 H27.4.11 ~ H27.6.30 現在)

以下のとおりお知らせいたします。

ご協力誠にありがとうございました。

小出詠子(愛知県)、万歳登茂子(愛知県)、  
西嶋攝子(大阪)、長柄光子(鹿児島)

### 編集 後記

時間が経つのは早いもので、新緑の季節の総会が終わり、今は真夏の暑さになっております。総会では多くの先生にお集まりいただき、支部・本部連絡会も盛況であったことを御礼申し上げます。日本女医会では今後も支部・本部の連携を密にして参りたいと考えております。女医会誌では支部の先生方の支部便りやエッセイの掲載を企画しております。支部の代表の先生を通じて原稿依頼のお声をかけさせていただきますので、その際には宜しくお願い致します。また、今年は日本女医会のリーフレットをリニューアル致しました。お申し付けいただきましたら事務局からお送り致します。女医会のご紹介や新入会員の勧誘などにご活用いただければ幸いです。最後に、会誌作成に際しては編集部員が慎重に校正をしておりますが、なにぶん編集の素人で委員歴の浅い者ばかりです。記事に記載や認識の誤りを見つけていた際には、御忌憚なく編集部(事務局)までお知らせいただきますようお願い申し上げます。(田辺晶代)

### 日本女医会誌

復刊第 223 号 2015 年 7 月 25 日発行

編集人 田辺 晶代

発行人 山本 纈子

制作 あづま堂印刷製

発行所 公益社団法人日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-8-7

青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : office@jmwa.or.jp